

調査研究協力者

本プログラムの調査研究活動を支援していただく今年度のCOE調査研究協力者に、追加委嘱された方々です。

2006年12月現在

氏 名	所属部局・職名
山本 志乃 YAMAMOTO Shino	旅の文化研究所 研究員
富澤 達三 TOMIZAWA Tatsuzo	中央区教育委員会社会教育課郷土天文館 文化財調査指導員
マクレリー ルシ サウス McCREERY Ruth South	有限会社 ザ・ワード・ワークス
堀内 寛晃 HORIUCHI Hiroaki	神奈川大学大学院工学研究科博士前期課程修了
藤永 豪 FUJINAGA Go	佐賀大学文化教育学部 専任講師
韓 東洙 HAN Dong Soo	漢陽大学校建築大学 教授
尹 賢鎮 YOON Hyun-jin	延世大学校中央博物館 学芸員
中野 泰 NAKANO Yasushi	筑波大学大学院人文社会科学研究科 専任講師

2006年度 海外提携研究機関の訪問研究員・派遣研究員

本プログラムより派遣・招聘される若手研究者は、約2週間をそれぞれの研究課題にそって現地調査を実施します。

訪問研究員

氏 名：ベネシュ オレグ BENESCH Oleg
(ブリティッシュ・コロンビア大学アジア研究専攻博士課程)

受入れ期間：2006年11月21日～12月4日

研究課題：1895年～1945年におけるの武士道精神の発達について

氏 名：唐沢 ダニエラ KARASAWA Daniela
(サンパウロ大学大学院日本語・日本文学・日本文化修士課程)

受入れ期間：2006年12月2日～12月18日

研究課題：ブラジルにおける日本マンガのローカル化プロセスに関する研究



絵葉書24枚セット（横浜の震災の状況を撮影したもの、昭和初期発行、発行所不詳）

貴重資料の紹介



その中の1点「横浜弁天橋より見たる本町方面の惨状」

貴重資料の紹介
2006年度に購入した資料

編集後記

ニューズレターの編集を担当して3冊目の編集後記です。この時期は、COEの作業に限らず、今年度のまとめに向けての作業と来年度に向けての実務レベルでの諸準備が始まり、なんともせわしない時期で、小さなトラブルでも、生じればその後始末にかかる手間や時間は、いつもより余計にふくれます。スムーズにことが運んでいけばそれはそれで、逆になにか見落としがあるのでは、と不安になります。今号も誤植、校正ミスなどが無いことを祈りつつ。（香月）

本学COE関係者にとって今年度最大のヤマ場であった第2回国際シンポジウムが無事終了しました。2回目ということもあり、昨年に比べると比較的余裕をもってのぞむことができたと思います。ほっとしたのも束の間、残り少なくなった今年度の最後には、報告書、年報の作成という課題も山積みですが...。（関）